



土木を自らの手で感じる「石積み学校」

課外活動や趣味を通じて土木の魅力を再発見する休日ドボク。第2回は徳島大学建設工学科助教の真田純子先生が主催する「石積み学校」を紹介する。主催者・指導者・参加者それぞれの視点から「石積み」への思いを伺い、石積みを経験することの魅力に迫る。

風景を生み出す生活を知る

徳島大学都市デザイン研究室の真田純子先生が、地元住民など参加者を募り、地元職人指導のもと徳島県内の石積みの補修を行いながら、技術を学ぶ「石積み学校」を主催している。その中で一年に一度夏休みを利用し徳島県吉野川市美郷の高開集落たかひらにおいて、学生のみ4日間の合宿形式で共同生活をしながら石積みの技術を学ぶ機会がある。昨年は全国から9名の学生が参加した。

学生を対象とする石積み学校は、「これから景観計画等の風景を保全する仕組みをつくる業務に携わるであろう学生に、石積み作業を通じて、中山間地の風景を生み出す生活を体験

してもらおう」ことをねらいにしている。石積みは農業を行う耕作地を造成することが目的であり、そこに暮らす人びとの生活基

盤でもある。また、真田先生は、石積みは古くからのさまざまな知恵が詰まっており、長年培ってきた技術は理にかなっていることがおもしろいという。土木系学生にとって、石積みの技術そのものにも興味を持つものが多そうだ。

単に石を積み上げるだけではない

学生に石積みを指導するのは高開文雄さん(81歳)。高開さんが暮らす集落では、古くから住民自らが石積みを行い、農地を造成し米や麦、そば

など多くの作物をつくっていた。農業を行い、農閑期に石積みの補修を行うという生活で育った高開さんは、小学校の高学年の頃から石積みを始め、2歳のころにはすべて一人で積めるまでになった。「小さい頃から石積みが好きだった。一人前になるには好きでなければいけない。常に勉強しなければ何年も耐える石積みはつukれない」。これは高開さんがよく話す言葉である。石積みの修復作業は、なぜ崩れそうになっているのかという原因を究明し、どのような作業で行えば効率が良いか考える必要



写真1 高開集落石積みの全景。古くは江戸時代から残るものもあり、急斜面に石積みを行うことは地すべりの防止にもつながる



写真2 指導を行う高開文雄さん。作業に用いる道具の多くは高開さんの手づくりで、効率性を重視したつくりになっている

がある。石を実際に積む前が重要となる。

また、高開さんは「石積みは単に石を積み上げていくわけではない」と話す。古くからこの集落で生活してきた人びとは耕作地や宅地、それぞれに適した場所を見極めてきた。そのため耕作地のかたちはさまざま、それが集落の風景にも変化を与えている。他の地域では、石積みを行う地形を統一しているところもあるが、高開集落の石積みは変化に富んでおり、中山間地での生活そのものが、かたちとしてあらわれた風景である。



写真3 4日間で、一定区間の石積みを修復する。写真は一度崩した区間の石積みを積みなおしている途中の様子。前面の積み石の裏には「ぐり石」という小さな石を入れる

体感して学ぶ

「これを人の手だけでつくっているのはすごい」高開集落の石積みの第一印象をそう話してくれたのは岐阜大学4年の川口直秀さんと長谷川真帆さん。お二人は昨年の夏に石積み学校へ参加した。「最初はただ言われるがまま石を積んでいた」と話す長谷川さんは、自らの手で積み、何度も試行錯誤することで、土の特性や石同士の間を詰めること、適切な積み方がわかってきたという。また、石積み学校では石積みの修復を行うだ



写真4 土あげ作業の様子。耕作地斜面下部に流れた土を「てみ」と呼ばれる道具を使って上部へ運ぶ

けではなく、耕作地の下側に流れた土をもとに戻す作業も行う。この作業が印象に残っているという川口さんは「思った以上に身体を使う作業であった」と、この作業を通じて中山間地で農業を行うことの大変さを痛感したと話してくれた。

長谷川さんは、「石積みがつくりだす風景を、簡単に美しいから残すべき」とは言えない」と石積み学校での経験を振り返って話した。川口さんは「昔から残っている石積みのような技術をこれからも応用して使うべきであるが、石積みの技術を知る担

い手が必要である」という。石積み学校で実際に中山間地で生活すること、石積みの難しさを体感することで、今後の景観保全について深く考えるきっかけになっていくのではないだろうか。最後には、石積みの魅力について、「日ごろ生活しているところにはない、

自然や地形と付き合いながら生活する住民の工夫が見て取れる風景を、石積みが生み出している」とお二人ともが話し、「石積みは奥が深い、また参加したい」とその魅力を強く感じている様子であった。

石積みを体験することで

土木系学生にとって現場で学ぶ機会は少ない。そんな中、日常とは異なる生活をしながら土木の知恵や技術が詰まっている石積みを体験することは、その土地での生活が風景をつくるということ、今ある土木の技術が古くからの知恵として使われてきたこと、このふたつを「石積み学校」を通じて感じ取ることができるだろう。

■石積みの詳しい内容は真田先生が制作した「柵田、段畑の石積み」という冊子にまとめられている。また、次回は2014年夏に開催予定。冊子や石積み学校に関する詳細は「石積み学校」facebookを参照のこと
(<https://www.facebook.com/ishizumishchool/>)

【取材・執筆】
寺嶋 茂樹 学生編集委員